

# DOIS Interview

第1回 宇野智之さん  
UNDP インドネシア事務所



## 宇野智之（うの ともゆき）

イギリス生まれ。早稲田大学理工学部機械工学科卒業。いすゞ中央研究所に入社。その後、東京大学新領域創成科学研究科 国際協力学修士課程修了。また、オックスフォード大学 (MSc in Nature, Society and Environmental Policy) 修士課程修了。野村総合研究所の研究員を経て、2007年 JPO 試験に合格。2008年6月より国連開発計画 (UNDP) インドネシア事務所勤務。

当専攻での修士論文テーマ：「東京都のディーゼル規制の社会構築モデルでの分析」

### ①今どのようなお仕事をされていますか

私は現在 UNDP インドネシアの気候変動プログラムマネージャー、および UNDP 本部のグローバル・コモディティ・アドバイザーとして勤務しています。今は主に 2 つのプロジェクトをマネージしています。

1 つ目は REDD+ (※注 1) です。ノルウェー政府はインドネシアに 1000 億円規模の REDD+ 関連支援を表明していて、UNDP が手伝いをさせていただきます。具体的には REDD+ に必要な REDD+ 庁の設立、法整備、国家戦略、MRV (Measurement Reporting Verification) や財政面など、REDD+ を実施するうえで重要な施策をサポートしています。そして施策毎にワーキンググループを立ち上げて、10 個のミニプロジェクトを行っている状態です。今は REDD+ 庁も立ち上がり、基本的な法制度が整ったので、実際に森林伐採を減少させるための REDD+ パイロットプロジェクトをやっているという段階になっています。そして、パイロットプロジェクトの選定基準やプロジェクトの効果をどう測定するかをノルウェー政府とインドネシア政府と一緒に作っています。これは世界でも前例がなく、参考にできる事例が少ないです。例えば、results based payment という新たな潮流があります。ODA のように活動予算が事前に決まっていて、村人や政府と一緒に活動をして事後報告するというものではなく、成果が達成できたら支払うという、実施する側にリスクを少し移すスキームです。例えば、地元住民やプロジェクト主体者が森林伐採防止を達成し、それを確認できた時点でお金を払うというものです。もちろん、全部後払いではなく、必要に応じて事前に活動用資金が提供されます。ただし、公的資金による投資活動になるのでは、といったような話も出てくるので、その辺が難しいですね。そもそも REDD+ 自体が難しいです。

2 つ目のプロジェクトは、本部主導のグリーン・コモディティ・プログラムというプロジェクトをやっています。REDD+ はインドネシア UNDP の職員としてやっていますが、グリーン・コモディティ・プログラムはグローバル職員としてやっています。森林伐採防止

のために REDD+などの大規模なスキームを作るのもよいのですが、商品作物の栽培など、森林伐採の原因そのものに直接アプローチする方法もあります。木材やパルプ、鉄鉱石や石炭の採掘もありますが、特にインドネシアではパーム油が大きな問題で、コーヒーやカカオなども生産性などが問題になっています。こういった商品に関しては、国際環境 NGO が消費者に対し、商品作物が森林伐採を起しているといったキャンペーンを行っています。例えばチョコレート会社などが攻撃されます。ただ、企業もただ黙っているわけではなくて、実は UNDP のような機関と一緒に手を組んだりしています。少し企業側の話をして、企業はまず、自社のサプライチェーンから森林伐採や社会問題を取り除こうとします。NGO の攻撃にさらされることは日本企業ではあまりないと思いますが、欧米ではかなり多いため、企業も原料がどこからどのように作られたかを精査します。次に企業は、自社のサプライチェーンの外側にも注目します。例えばこの先 20 年間コーヒー業界にてコーヒーを扱うとなると、20 年後も環境と社会に配慮したコーヒーを世界から調達できるのかと。そうなってくると UNDP と地元政府と一緒に仕事をして、良いものだけを買うといったサプライチェーンを守るという感覚から、生産国の環境を良くしていこうとする。欧米の NGO はそういった部分も結構厳しくて、自分のサプライチェーンを守っているだけでいいんですかと言われてしまいます。だから、先進的な企業はそれだけではなくて UNDP や政府と一緒に生産現場そのもの、例えば政策、貧困問題、教育の欠如や売価の低さ、銀行からお金を借りられないといった、いろいろな問題全般に取り組むようになっていきます。そういうニーズを汲んで、政府もなんとかしたいと思っているし、UNDP も民間と政府を巻き込んで新しい潮流を作ろうとしています。

グリーン・コモディティは国や商品作物がいろいろありますが、今私が 1 番注力しているのが、インドネシアのパームオイルです。インドネシアではパームオイルの作付面積の実に 4 割を小作人が占めています。ただ、こういった小作人の生産性や法律順守といった部分はかなり弱く、中には種を盗んできて適当にパームオイルを植えたり、国立公園に侵入したりといったいろいろな問題があるため、こういう人々を政府と民間協同でサポートしていこうとしています。さらには、森林の定義や地図が地元政府と中央政府で異なっていたりしますので、こういった政策的問題にも取り組んでいます。そして、関連するさまざまな活動をつなげるために、現在インドネシアでパームオイルプラットフォームを立ち上げようとしています。マルチステークホルダー（政府、民間、NGO、小作人）を全て集めて、みんなで生産性向上と環境保全をどう同時に達成していくかを話し合っているというものです。今までそういったものがなかったので、国連の中立的な立ち位置が重要になってきます。

## ②なぜ国際協力に興味を持ったのですか

私はイギリスで幼少期を過ごし、イギリスと日本の両方で育っていますので、仕事や生活の場が一国ではなく、世界どこでも住んで仕事ができるという感覚をもっています。それで、拠出金の額に比べ国連の邦人職員の数がすごく少ないということを知り、それだったら俺がやるよというのが始まりです。日本の拠出金の額は実際大きく、UNDP を例にとると、5 年連続でコア予算とプログラム予算を合わせて世界 1 位です。ただ未だに職員も少ないし、発言力も弱い。まだまだやることはたくさんあります。国連に入る前、私はハイブリッド車などを作っていました。日本には素晴らしい技術がたくさんあるのに、感謝もされずにお金だけば撒いている感じがしていました。それだったらお金以外に、技術や日本独自の経験など、他にも日本が世界に向けて発信したり繋がったりする何かがあるのではないかと思います。その方が逆に喜ばれるんじゃないかなと思ったことがきっかけです。

### ③専攻に入って得られたことを教えてください

DOIS に入学した当時は、理系から文系に変わった転換期でした。そして、理系だと問題に基本的に（正しい）解答があるけど、文系はその限りではないということに気づかされました。たとえばハイブリッド車だったらエネルギー効率の最適解があって、それに従ってモーターやバッテリーを組み合わせます。でも社会問題だとそもそも解答がなかったり、立場によって解答が違ったり、問題自体が問題にされたり。そもそも問題のポリティクスみたいところが理系だとあまりないですよ。基本的に売れるものを作る、もっと効率のいいエンジンを作るなど、それに反対する人はあまりいないですよ。でも、例えば原子力など社会的な問題が大きく入ってくると問題の本質が違ってきます。原子力の技術者は技術的な問題を解決するために派遣されますが、そもそも原子力は良いのかといった問いに関しては理系だとあまりフォーカスしません。それを、在学中にいろいろな本を読んだり議論したりしている中で肌で感じられたことが、やはりすごく大きかったですね。あとは、いろいろな刺激をもらえる、楽しい仲間ができたことですね。

### ④専攻在学中の課外活動や留学経験などがあれば教えてください

在学中に RASA という NGO に参加していました。佐藤仁先生の本にも、タイのワンケー村に住んでいた頃の話が出てきますが、それも同じ NGO が絡んでいます。佐藤先生からその話を聞いたことで、RASA に出入りするようになりました。その NGO は、開発の学生を東南アジアへホームステイに出すという活動を行っています。普通の NGO はトイレや学校を作ったりしますが、RASA の場合はそれをすると外部から何かを持ってきた人という感じに村人から見られてしまうので、そういった「干渉」は避けます。ですから、RASA のホームステイはアジェンダがなく、ただ村人の家に住むというおもしろい活動を行っています。最初にオリエンテーションとしてお寺に 1 週間ほど住み、瞑想をやってみたり、周辺を散歩したり、朝に托鉢をしてゆっくり過ごし、それから村人の家に行きました。2-3 週間村人の家で…何もしないんですけどね。でも何もしないでいると、やはりいろいろ見えてきます。変なおじさんが家に来たり、段々暇になって「一緒に学校行っていい？」と言ってホームステイ先の子供と学校に行き始め、英語ができる人がいないから英語の先生になって欲しいと言われ、英語を教えたりもしました。非常に得難い経験をさせていただきました。その翌年、引率の人がいないということで、引率役として学生を連れて行きました。それもすごく面白かったですね。

それから、石弘之先生がまだいらした頃だったので、ベトナムへスタディーツアーに行きました。修士の学生が、ドクターの学生のフィールドと一緒に旅行に行くというスタイルです。それは今でもできると思います。例えば、専攻のポスドク、ドクターや教授と一緒に彼らのフィールドと一緒にいくと。そうすることで、現地の大学の教授、政府や国連職員と実際に話したりすることができます。そのようなことをやりましたね。

### ⑤学生時代の経験が今の仕事にどう活かされていますか

1 番大きかったことは、先ほどの文系的な視点から問題や仕事を鳥瞰できるようになったことです。例えば、パームオイルによる森林伐採において問題を引き起こしているのは、小作人もいれば、企業もあります。NGO は企業をよく叩きますが、小作人の「問題」もあります。さらに、違法でない森林伐採も存在します。国立公園や貴重な資源に指定されていなく、政府から許可が出ているような操業は違法ではないでしょう。ただ、NGO や市民社



会が大事と考える森林と政府が大事だと考える森林が一致しないため、問題になります。県の（パームオイル農園誘致による）開発、投資の呼び込み、仕事の提供と、国や地球全体のために希少な生物多様性資源を守るという難しい問題が浮かび上がってきます。その他に、賄賂の横行や情報がしっかりしていないという背景もあります。このように、ただ企業が悪いと決めつけるのではなく、少し引いた見方が大事だと思っています。それから、佐藤先生がよくお話しされていたことで、タイの森林総局の問題があります。森林総局は予算が足りないということを問題にしていたけれど、よくみると、森林総局の予算は毎年増大していて、なぜか森林面積だけは減っていたという話がありました。このように、実際はもっと裏があるのではないかと、いろいろなものに関連しているのではないかと、といった感覚は専攻で身に付き、仕事でも役に立っています。

#### ⑥今のお仕事で、楽しいこと・やりがい・辛いことは何ですか

楽しいことは、いろいろな所に行けることです。ジャカルタ在住ですので、バリ島などに頻繁に行けます。あとはフィールドに近いということですね。ちょっと飛行機に乗ればカリマンタンやスマトラとか、実際にフィールドに行くと現場を見られることがすごく楽しいです。でも、NGO と違って深く関わる訳ではないです。国連職員の仕事は基本的にはマネジメントや立案ですので、政府の役人と話したり、調整したり、報告書を書くことがほとんどです。実施はチームを雇って管理するだけですから、フィールドに頻繁に行けるわけではありません。ニューヨークの職員よりはよほど行けますが、地元の国の役人やNGOの人たちの考え方を肌で感じられることが楽しいですね。

それから、この UNDP 自体がすごく自由で欧米的なところが自分に合っています。例えば両親がジャカルタに遊びに来た際、お休みをとって一緒に観光ができました。その分夜遅くまで家で働きましたが、日本の企業だとかこういったフレキシブルな働き方はなかなか難しいように思います。国連の中の人には欧米的な感覚で、そういう人間的な生活と仕事のやりがいがマッチしている感じがよいです。

やりがいは、何でもできることです。実際、国連は調整がメインで、人や物を動かす本当のアクターはやはり国です。国連は国が持っているような主権はないですが、例えば、各国を集めて話し合いの場を作る、ドナーからお金を出してもらってプロジェクトを立ち上げる、国際会議を開催する、チームを雇って重要な案件に関する報告書を書いて発表する、新しいプロジェクトを立ち上げるなど、やりたいことは基本的に何でも出来ます。ただ、1つ出来なかったことがあります。東日本大震災後に、日本でもう少し国連機関が現場で動けないものかと考えたことがありました。国連には津波被害からの復興も含めて（スマトラ島沖地震など）いろいろな技術や経験があるので、日本の役にも立つのではないかと。でも、そもそも UNDP は途上国への支援というマンデートの上でお金をもらっているからダメです、と言われたことがあります。そのようなリミットは結構しっかりしています。

辛いことは、アドミンやオペレーションのシステムが弱いことですね。私は2つの日本企業で働きましたが、日本企業に比べるとマネジメントが整っていません。NGO が大きくなったという感じです。だから、仕事がすごく降ってきたり、人を雇うときの手続きがものすごく面倒くさいです。ちょっと日本企業で甘やかされたのかもしれないですね(笑)

#### ⑦どのような想いを持ってお仕事に取り組まれていますか

結構今やらなきゃいけないことが多くて(笑)。我武者羅に少しでも前進できればという想いです。例えば、私は今パームオイルプロジェクトに注力していますが、他にも商品作物はいくらでもあります。ドナー国政府やグリーンファンドという環境ファンドから資金を提供していただけるので、時間があればそのようなプロジェクトも立ち上げなくてはと

思っています。数ある問題を少しでも何とかして、複雑なプロジェクトをやり遂げて、もっと大きな仕事に繋げていければ、という想いで仕事に取り組んでいます。

#### ⑧国連職員に求められる知識や能力は何だと思えますか

英語とコミュニケーション力がすごく大事だと思います。会ったら挨拶する、何かして頂いたらありがとうと言う、悪かったら謝る。人として基本的なことを英語でコミュニケーションできるのが基本だと思います。それから、普通に仕事ができること。「ホウレンソウ」は大事ですね。報告・連絡・相談して、責任をもって言われた仕事をやることは日本では普通かもしれませんが、途上国ではなかなか定着していないように思えます。ですので、日本で普通に仕事をこなせる能力、責任感、日本のきめ細やかさがあれば、それだけで優位になります。

私はスタッフを数十人抱えていますから、仕事を任せたと全部管理できません。だから、言われたことをきちんとやって、上司のニーズを分かる人は助かります。どんな仕事でも同じだと思いますが、私が言わなくても、このプロジェクトにはこういった人を雇わなきゃいけないとか、ワークショップを企画したらどうですか、と言ってくれるスタッフは重宝します。そのワークショップはどのような内容なのか計画書を頼むと、すでに用意してあるとか。すごく仕事が進みますよね。そのようなニーズを汲み取って自分から積極的に手を動かすことが大切です。加えて、途上国では柔軟性とセンシティブなところも必要です。センシティブというのは例えば大使館に直接電話かけてはいけないなど、言わなくてもわかる感覚です。そして、企画実行力。自分の頭で考えてどンドンやることです。それから、何らかしらのスキルや専門分野は持っていたほうが絶対いいと思います。

#### ⑨これからのご自身の夢を教えてください

私は将来日本でリタイアしたいと思っています(笑)。ご飯が美味しいし、温泉もありますし、なにより祖国ですから。現在の日本は先行きが暗いと言われますが、国連での経験やスキルを活かして、日本の諸問題に少しでも貢献できればと思います。日本の多くの根幹的な問題は外からのサポートが必要だと思います。官民や世界を行ったり来たりできるような、そんな仕事につなげて良ければいいと思います。

#### ⑩「国際協力」とは何ですか。お考えを教えてください

より良い世界をつくるための活動をみんなでやることだと思います。資金を出すだけではダメで、特に日本のようにエネルギーや食糧のほとんどを外国に依存しているような国は、真剣に取り組まないといけないと思います。これは自国の安全保障にも関わってきます。国際協力を通して経済的なネットワークを広げたり、少しでも相手国のインフラを良くすることで社会経済的な発展に繋げる。これは日本にとっても良いことだと思います。東南アジアなども社会経済的に発展し、日本と同じように民主的な感覚を持つ国を増やしていくことが重要だと思います。そうするには、お金を出すだけではダメで、もっと真剣に取り組むべきです。(日本は)これだけお金を出しているのだから、もっと口を出して人を出していったほうがいいと思います。

たとえば、日本における国際機関人材募集はすごく少ないです(<http://unjobs.org/>参照)。ワシントン、パリ、ジュネーブなど100人単位ですが、東京は通常数人というのが現状ですので、国連システムの中での日本の位置づけを強化したほうがいいですね。

このためには、日本は官民一体となった戦略的 ODA 構想を早期に立ち上げ、世界に示し、資金や人の配分を日本のロジックで行う必要があると思います。外務省と経産省の協力的な

ど、いろいろな動きが必要でしょう。お金を出してはい終わり、では勿体ないなと思います。

#### ⑩国際協力に興味を持っている学生へメッセージをお願いします

日本と外国という考えから脱却することが大事だと思います。海外は「外」に行かなくてはならない、遠い、危ない、という感覚ではなく、実際は飛行機に乗って数時間の場所と考えてほしいです。英語が出来れば基本的に問題ないですし、活躍のフィールドは（日本も含めて）世界にあります。今はたまたま日本にいただけ、という感覚が必要です。日本以外の場所でも生活できるということは、地球市民として当たり前ですよ。たまたま家族や友人が日本にいるからというのはリタイアする理由としては良いですが、生活やキャリアを日本だけに括る必要は全くありません。特に国際協力の分野に関しては日本の中では得られない経験はありますので、海外で最低数年は住んだり働いたり勉強したり、留学するのが良いと思います。英語でのコミュニケーションは本当に必須です。日本の最高学府と言われている東大の、国際協力の学生が世界に打って出られないのであれば、とても残念に思います。DOIS の学生にはどんどん外にいて垣根なく活躍してほしいです。最近ハーバードなど海外の主要大学への日本人留学生の減少が著しいと聞きますが、そういったところも盛り上げて欲しいです。ご自身や日本の将来のためにも、広く海外の学生と交流し、国際的な感覚を肌で身につけ、ネットワークを構築してほしいです。

---

※注 1: REDD+ (Reduction of Emission from Deforestation and forest Degradation) とは、第 11 回締約国会合 (COP11) において提唱された「REDD (途上国における森林減少・劣化による排出削減)」に、「プラスの概念 (森林炭素蓄積の保全及び持続可能な森林経営ならびに森林炭素蓄積の強化)」を加えたもの。途上国での森林減少・劣化の抑制や森林保全による温室効果ガス排出量削減に、資金などの経済的インセンティブを付与することにより、排出削減を行おうとするもの。

宇野さんに関する記事：

[http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/presscenter/articles/2013/9/3/news\\_20130903/](http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/presscenter/articles/2013/9/3/news_20130903/)

2014年6月18日 環境棟7階ゼミ室にて収録  
修了生：宇野智之さん (UNDP インドネシア事務所 勤務)  
聞き手：宍戸亜矢子、多田玉青 (修士2年)